

血にそまりしこの大地をみよ
 いくたりのいけにえと
 恒念の血をさけし大地を
 流れり生き死ぬ所のこの大地をみよ
 幻影の海におぼれることなくこの地にたてよ

あまた流れし血の大いさを吾が力とせん
 死者のうめきを耳にせん
 死者のいのちを吾がものとせん、よみがえらせん
 こえ血したたりし旗をもて、起ちて闘わん

血にそまりしこの大地を吾らの手にかえさん
 吾らが げげられし魂とさけなたれるとき

(1)
 明治大学部、日都学生たまば、勧業学生そして商々、明治大
 学の学生たるは、と称されるうちにになった学友諸君。
 「日都学生は選抜者が多く、と昨年の学苑会団交（・27）の
 席上でも発言したのは、日都教務生をつとめる西原と、う教授であ
 る。一方、彼は我々のむしろいじる痛苦を深く知っているのか。
 彼は我々のあれている現実を直視してみたことがあったのか。

我々も又 知つて居る。多くの年間遅が学費が払えなくなつたり、
 あるいは生活が過われ、職場からの制約によって、明治生まつて
 かかるえなくなつたことを、もちろん、それのみではない。だから
 こそ、この無理な現実を直視してきた。そして、だからこそ、闘つ
 てきた。
 しかし、彼は我々の追求の前に、市場調査よろしく数字のみをみ
 げ、居直ろうとした。これが、我々を「教授」すると称するものの
 発想である。

別教育」の財政的権力を併してはならないとして、又、それは
 「学生・教職員に対する管理制度の強化」の財政的裏打ちを許して
 はならない限りとして、免じて、明治大学に著的にかられる中教審
 裁判を経てして、その意味においては日本帝国主義ブルジョア

階級的衝突のさ中 共同の作業としての飛躍と継承を

学苑会新生歓迎迎春寒行委員会
委員長 海江田 鉄男

血に染まりし大地を我が手に!!
 一僕達は聞く、そして忘れない。—



明大学苑会

目 次

卷頭言	1
学苑会新入生歓迎迎春寒行委員会委員長 海江田鉄男	3
学苑会中央執行委員会委員長 島津義広	9
駿台文学会執行委員会	14
駿台法学会執行委員会	16
駿台政経学会執行委員会	18
商議会問題 学苑会中教から	20
研究部連合会執行委員会	21
四寮委員会 新寮闘争委員会	23
各サークル紹介 (研連加盟)	25
拡大教対会議	34
各報告から (1.1.9 报告)	37
駿台労働運動研究会	38
あとがき	

シの死活問題である労働力問題、教育問題、身分制を足下から見るがざんで關してあつた。それは我々が望むべきであると信じた。帝國陸軍ルシ、アンド・同様陸軍が、關の庄毅に登場するところであらわしていく。

[3] 我々をして、關へとおもむかせるこの現実のなんとうう説敗か。

る。その「死」そのことば、我々にありますにも多くのこと」「いつづけ」として、何なのかな。死語とは云ふべきでござらぬか。
々の学費闘争は何であつたのか。そのとどが、新入生と共に考
みきたい。どうわけ「死」をう事の中で、我々の闘う、そし
て「清音」そのことの中身を共に課題としておきまつ。

ルペーパー、その文書を含んで、
「新規の開拓」などとして中間開拓、即ち内
陸施工。バーチの増大、組合つぶし等、労使協議組合の育成、これ
らがワゴンセメントとなっておしかけてくる。そうした大合理化が進行
してくる。
以前より多少ない労働力で、以前より多くの物を作れる。いわゆる

雇用を苦に教員助手補助課にゐるなどを指摘してある。現に実行すれば、運動部を始め手運搬車をもつて、駆けめぐらがますます走らしめる恐懼。パートの大量選手をもつて、駆けめぐらがますます走らしめる懼れである。そこでこのことを知つてからでなく、任任せを拒否しました。これが「男筋法」を教授するといふ松原市毛なのだ。――

その中で西美は進行する帝國主義によるアジーの収奪と支配の強化。

(4) 六〇年安保運動会実行の最高頭を抱えてきた明大二年生源義洋は、六年目日暮、六年早年の波及を受け、星聞部が学業優等賞を認めても、やがて、六七年春の学業優等賞を廃止し抜いた。そうした、幾多の血みどろの政治的歴史を受け、昨年、神羅反復研修会社由仁御賄院五郎止を主導者として始めた力士道連合もまた、それらの社会的、精神的突破に向けて獲得された地平を其の講習説へ、抑圧の鉄腕をはぶつけ、感性的無限の解放に向けて進むつもりではなしが。

之の如く、新入生の歓迎など、この学業闘争の過程で多くの学友を失った

(1) 明治大学賀ノ教官開闢争は七年十一月学費値上げに遅れ以後、受験料の領上に因る闘争として興りあがめた。とくねば、七年春、明大の不肯共進会の申由、赤字を生み出二部の文教費、以後、三部改編問題(後述)、教費、学費値上げ阻止は二つもの問題であつた。

この二部改編問題は六年七月、明大改編委員會(後述)、明大改編委員會の問題となり、そして、今回、学費値上げと共に、進行してゐる。どうわけ、一部だけ中心的にかけられる「選任」、そして長期間ロ・ターグト、とりもなおさず、中部への大中學費値上げ、それと同様、二部値上げ減として、真実に二部改編、統合を進行してゐる。

七年六月二日、学部文理研究會、学長田村が通達、後援會に入会請をさへて、英力で克ち取られぬ、この回交には一部の文教費として、学友會の参加をもつた。その席上、かの西郷の惡魔議論があつたのだ。我々の追求の末、学長小川は「現在、学費値上げは考えてゐない」とか「直上げする時は、学生との話し合へ(西郷)」の上

「、機関車はいつの間にか電力で走る時代へ。我々の間違ひも、畢竟、機関車を知らぬ者たる者たが、それにはそれが今さわらぬ技術を知れり！そして思ひ知るがよ。」

(1) 何故か、これほどまでにして屈うるが、畢竟上等は「赤字だから」と云ふ。我々は何故か今も依然として開うつの、畢竟上等は「赤字だから」と云ふ。否、文学部の教授ですか、「赤字は積算上げの理由にあります」と述べて居る。

全国国公大の一斉学費統一と同時に並行する駿駒大学院。別途改造と云ふもの中にあってその学費標準より、少しでも組みこまれた上位院。

明大學院、教育競争で、少ししたまぐ、それから必ず派遣親と、近代化をもつて進行する身分制、差別と分断。そのことに注目しつゝ開かれてきた。

(2) 今、「機関車」は大合理化が進行している。上り方ね、列島改造の名の下、工場再配備、移転、開拓を含んで進行している。コ

「おどかせ」と発音をし、団子の繊維を研磨した

(2) 10月に入つてから、各学部各クラスから關心が高まり、討論をして決議。副主席として進行していく。当時の文字は「政治的問題をもつてかねて、学生は皆キラーベーの間に、闘争していなかったのだ」とある。次に、学業昇進上問題の關心は、例えば「文一年度預付停止運動委員会」文政11年夏止運動委員会=政使上院阻止行動委員会と自らに關する問題を與えられた。決定と執行が分離するのではなく、決定し執行する團結が、團結と共に形成される。關心を自己選択で推進するのだ。しかし決定と執行する、分配されざる現実が、社会主義の中心であつて、決定と執行する、分配されざる現実が、社会主義の中心であつた。結果を以て、自らを支配してしまふものとしてある。他人から決定を押しつけられるることを拒む。従つて、支配されることを拒む闘争であり、決定し執行する。その團結の中で、自己が運営もうつられてしまつ。こうした闘つて、團結が形成されてゆく。それは、徹底して發展する行動模式である。團結形態であつた。同時に團結形態を自らが運営する団結形態であつた。

(3) 文学部審査委員による文学部講習会への介入闘争、そして第一次文部省審査委員による文学部講習会への介入闘争、クラス。サークルの問題日々、進捗する。法律教義授会への介入闘争、そして第

たように、
11月15日政教課、16日法、17日文、と国文は闇扱われた。「知らな
と教授が述べれば、「文部省からの財政援助があつた
ずだ」の學生の過激を認めてみる」として、「学生との話で合意した
で決めるべきだ」の政教課、法、文)とか「文部財政を理由とした
費使上げは反対である」(文学部教授会正式電報)とか述べざる
なくなる。
しかし、諸葛の15日政教課、16日法、17日文と国文のあった次
18日には何と、学費監査室案が、立派に印刷され、配布されたのだ。
物が我々へいただった。
(4) 明大付属中野高校教職員に対して、学費監査上説明会が
されたのは翌、11月19日だ。教職員に賃上げを上げつかせながら
学費値上げををからうることは、許せない。教職員と学生を
断つる、分断して保護を飛ばすることは憲法が許せない。また
もの話し合の上、決定すべきだ。そう述べた後は速読速記が、
明集会に学生を説教するとはねおさらされない。にもかかわらず
や、説明集会に介入し、学生を、なぐる、けるのリンクチを加え、
実際に引きわたしてゆのだった。

(3) 工場内の合理化が同時に社会内産業の再編をもって進行する現象の発展、それが中教審議会であり、その影響は教育行政に及んで、全国公私大、高等教育も上昇してある。社会内産業の再編と同時に教育の再編をもたらす（えな）。中等教育で、専門化する傾向、新規化、新しい規律体系を見合う専門的技術開拓者の大量の産み出しが、高等教育で、多様化として進行する。高等教育で、高度な技術開拓者として培養される者、教育をうけたもの、又、それを教育する者と、そのようす、專業の延長の上に専門化して体系化して進むる教育の積み重ねが進む。

熟練工を中心とした労働様式が一方における専門技術労働、そして、そのうでの單純肉体労働、熟練工必要としない単純労働、その上で管理才を要する者といふように変化されてゆく。往日しなければならないのは、熟練工を必要としなくていい、しかし劣役の人間もやらねばならない、というふうな熟練工をひきあうける肉食の労働者の問題である。それは經營者、時工、社外工、パートの増大と共に工場制度の下に現れる現象で、反逆すれば甚ざら労災にあれば甚だしく殺人され、死んだされる。出火死亡者の激増、よつて、コンビナートにおける

外¹、パートは、即^{ハシマ}開拓^{ハシマ}プロト^{ハシマ}リード^{ハシマ}トが不断^{ハシマ}に被築^{ハシマ}被築^{ハシマ}される。アリード^{ハシマ}との競争^{ハシマ}を打ち取^{ハシマ}なれば、本流^{ハシマ}から手^{ハシマ}被築^{ハシマ}に至^{ハシマ}れる。だから、辰時^{ハシマ}用^{ハシマ}、社外^{ハシマ}である^{ハシマ}と、そこにしがみ^{ハシマ}もさる^{ハシマ}えを、だから^{ハシマ}してさから^{ハシマ}な、そらうの邊^{ハシマ}が今^{ハシマ}、この合戦^{ハシマ}の中^{ハシマ}で、難^{ハシマ}として、子備役^{ハシマ}アリード^{ハシマ}トは、即^{ハシマ}に被築^{ハシマ}される。部^{ハシマ}中^{ハシマ}で、被築^{ハシマ}して分野^{ハシマ}、差別^{ハシマ}は^{ハシマ}、助長^{ハシマ}され、拡大^{ハシマ}される。部^{ハシマ}落差^{ハシマ}、民族差異^{ハシマ}、種族^{ハシマ}差別^{ハシマ}、性別^{ハシマ}差別^{ハシマ}者^{ハシマ}、差別^{ハシマ}決して十^{ハシマ}かく^{ハシマ}で^{ハシマ}きな^{ハシマ}が、意識^{ハシマ}的に^{ハシマ}した差別^{ハシマ}が助長^{ハシマ}する^{ハシマ}大きさ^{ハシマ}で^{ハシマ}ある。これが教育^{ハシマ}においては、教育^{ハシマ}過激^{ハシマ}が、『障壁者^{ハシマ}』が形成^{ハシマ}され、(障壁教育^{ハシマ}、入学拒否^{ハシマ})そして、全国公私大学^{ハシマ}資費^{ハシマ}免除^{ハシマ}を^{ハシマ}して、下層^{ハシマ}階級^{ハシマ}アリート^{ハシマ}ト、子備役^{ハシマ}アリード^{ハシマ}ト等^{ハシマ}は、育^{ハシマ}が^{ハシマ}被排除^{ハシマ}され、それが^{ハシマ}それで^{ハシマ}上^{ハシマ}へ^{ハシマ}の^{ハシマ}アーチ^{ハシマ}で^{ハシマ}しか^{ハシマ}ある^{ハシマ}。かかる^{ハシマ}えなど^{ハシマ}、そつた問題^{ハシマ}もある^{ハシマ}が、ここでは^{ハシマ}話^{ハシマ}しない^{ハシマ}。どう^{ハシマ}うに、教育^{ハシマ}をして、又^{ハシマ}組み^{ハシマ}える^{ハシマ}ことを通じ^{ハシマ}て、隔離^{ハシマ}分化^{ハシマ}、身^{ハシマ}制限^{ハシマ}、そして差別^{ハシマ}が拡大^{ハシマ}され、維持^{ハシマ}され、強化^{ハシマ}されてゆく^{ハシマ}のだ。

六〇

(4) こうしたことによって出来きねばならないのは、どうがんか
うか、従つてあることは運んでしまわれた者を精神化して、
したじきにまたが故に、體は健てあるところである。しかし、
いわゆる犠牲性にして行なうる。機動隊の、日南隊の、安田
勤訓隊、四次防、立川自衛隊隊員、司法のノン・シャー化、
刑法の改革運動、いつもの理由がここにある。

そのことを問題にしつゝ聞かれてきた。
だからこそ、部落解放同盟の人達、沖
々は真剣にうけとめ、差別をなくす、そ
を錢く聞い直すものであるが、そうしたを
闘争を経つてきた。
それは、我々の社会的認属を根源から
我々の必然的な希望を増々、鮮明にして

向の人達の餓に提起を我
は我々が学生であること
を同時に關らつて學費

やうやくつらのとして把握せねばならないと思ひます。④「多角的平和共存」という提綱説明をナーメン人間にして、私は彼は全世界の労働者人民を鼓舞して、先頭に立つて、今年一月「和平協定」という形をして、今新たなる力をもつて、これまでの反戦闘の弱さの中で問題に入らしめたのである。

この政府の政策が不可欠であります。首都における統治、官僚者
人の工場、商店、酒店等のセメントを背景に構造できました」という
そういう事実的で具体的に内包されて実行する事態があると思ひます。
そして「民族解放を掲げ、半世紀の長い間、文字通り炎の中で死
に突
闘を繰り広げて来た。トナベ、又はインンドラ人民の如く、今
來た
やその根本的な勝利を國際的に、世界的に有様をもって押し進め

(1) 需要の増加、生産の高効率化、流通の合理化などによって、生産は飛躍的に進歩した。しかし強固に醸かねるアーティストの闘争は、この時代には増々、激化する。また、社会的・政治的変動が頻繁に起り、その影響でアーティストたちの立場も複雑化する。一方で、アーティストたちは、自身の表現をより自由に追求するため、伝統的な規範や既存の藝術理論から離れて、新しい表現手法や視覚言語を試みる。また、アーティストたちは、社会問題に対する意識を高め、自身の立場や意見を公表する機会を得る。しかし、アーティストたちは、自身の表現をより自由に追求するため、伝統的な規範や既存の藝術理論から離れて、新しい表現手法や視覚言語を試みる。また、アーティストたちは、社会問題に対する意識を高め、自身の立場や意見を公表する機会を得る。

級的衝突の時代で職業的解決能力の開示とともに、(3)しかし、我々は「失語」今、我々は「失語」であることは、うした人間關係、

友を失つた。このことの中で何が残りえよう。
してある。このことを痛苦に思つ。
関係ないよ」 そう語られてしまふ母どの、そ
の存在。

そのうえ、アーチーの「アーチーは日本人の民衆を上等にする事ができる」という根本的な誤解が、彼の行動の根柢となつてゐる事です。かくて、現在的に突きつけられてゐる事です。そうして、立て方を踏まえ、開拓^{トナム}人の課題
南北の民族的統一、「自主独立」への統一、チニヤンゴ
共同で行わねばならぬ、その極めて和やく「の具体的問題」

眞
とくに、その運営に、私的の運営を共にせざる所の運びのあつたからと考へ
るに於ては、「工場と大企業を經營する手の主」、「全國の製糖業者連合會
幹事會」、「日本製糖会社の頭」など、「全國の製糖業者連合會」の「幹事會」
が、田舎の工場で表現する所外には、死を恐れて、遠く以外に
は「遠隔」とう言葉の内実が、つも克ち取れず、過激の一歩たり
と前の進がたのだとこう事を嘆いておられたいと思ひますから。
が進

生き様の前提を繰り返し向いつづ

(4) 我々の體は殊々しい人間關係 他人を活用対象とし考へな
る人間關係 そして差別と分断をこえ、新たなる人間關係、即
ちそれにとってかぎり「ある」が、その關係でしか開拓されてゐる行動範
囲会運動はこのことを學んでゐる。

(5) 我々の課題はあらゆるにあまつし。しかし、闘争が階級的意識をも
つるものである以上、一刻の猶予も評論態度も許されず、同時に解
決をせねばならぬ。だからこそ、本格的に勝利、根柢的な解決が我らの
手に握りえる、最も正しい道筋なのだ。

學苑會中央執行委員會
秘書長 島津泰

- 9 -

「母なる文化圏上に屬するべき、その文化の發展をめぐる問題の多くが、其問題をもつて今般推進してゐる所だ」と考へます。

二、議會制ブルジョア政黨の危機と、ナシズムの台頭

私達は、昨年春の衆議院全国選舉で、「わがる社会党、共産黨の伸張と、それによって自民党政権が国会内蔵密活動で、かるうじて

か海の運河と化して、政府はその運河開通を急いでいる。一方では、最後の守りの城、即ち、安政の大獄で、帝室主導の民衆暴動をさせ、その結果として、元老院議長の久松左門が謀叛罪で斬首され、その死後、この過度の表現が、明治維新をもたらす。この過度の表現が、明治維新をもたらす。この過度の表現が、明治維新をもたらす。

(1) 「多角的和平共存」という連絡網調合ネットワーク人民の醸成
私達は、全世界の労働者人民を鼓舞し、「闇の先駆立派」そして
今年一月「和平統一」をとる道をとつて、今後大きな戦略的に突
入していくこと、これまでの反帝抗争の點で「中間階級」を主張す
事が、どれほど危険莫大、「自らの根本的解決」をめざして、真
意図での行動がダントン人民を巻き上げる事ができるのかどう
かとして現在的に実感つかれておると願ります。

そういって方々を励まえ、闇の「トナム人民の問題」とは、「
南北の民族的統一」と「民主独立」への潮流、「チャーチイング」政策と
併せて行わねばならぬ、その他の「和平」の真後ろ諸問題が進
展してくるのです。

私はこの「チャーチイング政策」が、アメリカ帝国主義より、「
和平」の剥削と大量の軍事供存を多く、あの相模原蒸氣船より、虐殺
武器である45機爆撃機等が送られてきた時の「わが子」アーヴィ・由士義蔵園の中で最高の敵力を持つて居たのであります。全く
ヨリモアの「政治」をしてしまひました。我々が、斯
く現せねばならぬ事の一ひとつ、しかるこの「チャーチイング政策」
が、南アフリカの垂むざか有る階級、地主、あるいは官僚ど
うたる劣等な階級を導く労働者農民が悲惨の上に若狭の群分の尊殊
利害を最優先的に体現して居る所の本質、社会的基盤にあるが故に、
その政策が何よりもして握られねばならないと思ひます。

（2）「民族解放」を掲げ、半世紀もの長い間、文字通り荒野の中で死
闘を繰り広げて来たケントナム、又はイングランド人民の闘いだ、今
やその根柢をもつて世界の人民をもつて、その運動をもつて、その運
営過程で、私達の運命と共にせんそその筋ひを走らしめよう
とするならば、「工場と土地を離れて働く者の手に」、「万國の労働者団
結」として、この日本の地にまで、学園、工場、
田舎で、自らを行路で表現する以外には、死と睡魔に説かれて、運命の一歩たり
とも前進せぬかと心を鼓舞しておきたく、と心を燃やす。

だがしかし、昨年「火災」、「火災」の後から、政治的
な流れの中で、アメリカ帝国主義が国内にだけなく「トナム戦争」に
よる深刻な社会的対立や、対外的には資本の大団塊の赤字等を
もたらした階級矛盾が激化化し、政治的にも経済的にも國際的で内閣制の
再構成自己の階級支配の命延を危機意識をもって踏ましている
事はまづめんなさぬねじまません。

また、南アフリカの垂むざか有る階級、地主、あるいは官僚ど
うたる劣等な階級を導く労働者農民が悲惨の上に若狭の群分の尊殊
利害を最優先的に体現して居る所の本質、社会的基盤にあるが故に、
その政策が何よりもして握られねばならないと思ひます。

私達は、これらの法条は單なる共通性を見るならば、地区に於ける

管理と並び、秩序防衛が主たる趣旨であり、政治的立場からの方

との進歩が認められるであつたと思ひます。

我々はかかる「ノンヌムの現実的優勢」を打破し、新たな共同体、「西側的」團結の創出を、一目的しかも暴力なものとして

現在の「ノンヌム」をもたらすと思ひます。

向性を持った全面的総合的民族主義、闘争的任務をも據つてゐる事が、實に要請にござると思ひます。

三、差別、差別に買かれた過度的学費値上げ執行―教育改編に全面

的対決による勝ちの水統的優勢。

四月十日、國鐵高鐵系駅頭で「乗客暴動」が発生した。

勧告十七日、國第二十回「運動保護ストライキ闘争の面前」

の事態の進行、運動地域の中でも今日の労働者に対するさらなる強奪

取、強奪暴行を知ると同時に、恐るべき階級反対の闘志が發

き出される事態です。生徒の暴動、暴行、國鉄本社人事

謀叛、自衛団員のファシズムの前に数万の労働者が奮起し、暴

害者の名の上に相模、横濱の労働者の間の分断が進んでゐる。

ところが未だ屢々労働者一千五百差別本工主義的労働運動に見

られたが、生活の危機、貧乏といふ現状をくぐり、解決能力が

あるのかおもき出され、組織化されんとする事に激昂して注目せ

ねざさざ、教團の青年労働者層としての決起と、國家統治機

の膨大化の下に推進く進行する差別と分析、その事に解決しなくて

ばかりか、隠蔽として登場する労働への敵対ファシズムの人々

四次防ぐべく、沖縄官僚軍事幹部をもって飛躍的に確立した帝國主義的子孫國会議より、防衛法案として、檢斷強制負法律として、

その公然たるロリヌス法案として議院制ブルジョア族の危機に

準備し、その差別としての恐るゝ結果別立法を、出文閣法案による

在日外国人監視、保安処分による障壁差別、育児休暇法、労基法改案、後生保護法改案による女性差別として準備してゐる

事です。

「各人の能力にて在じた教育を」というブルジョア教育改革に對

する明大學生は、まさに清潔の中には「この

諸君に對して、僕ら「上等生」は、勝るき花の言葉を紡ぐ

せてはならぬ。僕らも又、入學試験に合格して、7万枚手帳を支払う

入学して来る。そして勝たつとも、明大の部の学生」といふ境

遇にかかるところ。君たう」と、僕は、同一の号で、同一の

利害のものには繋がるべく、仲間として帝國の呼びかけが、我程

スローガンの後で根柢を改められる非能力者、不能者との

格差は極端で、在日外国人、沖縄人、難民者、女性に対する人間

的自然の差異を用いて差別として差別選別教育の初歩をさげ

る。當局に被験選別のあらわな差別に対する抗議として闘つて、差別選別教育を

かし入学の目的は、誰もが史や文學を学ぶ、あるいは學業を取

得して「よき未来」を構築するため、既存の手段であるしか

で学ぶためには、學かねばならぬし、又、ある者は星雲の試験に

失敗し、無能なことを示す上等大学してきては居らぬだろ。し

一切の差別、分断を越えた闇いを!!

鞍台文学会 執行委員会

を生んでゆく。

明治大學では文學を讀んで、昨年以來文學のほむけに反対する闘

争が続いている事だ、新生活動部は既に知つてゐたが、一部文

科で、そのままでして月十日から無期間のストライキをひいて、闘ひは

始まつた。そこで、月十日、同じく明大の部の学生とともに、明大の部の学生とつう境

遇にかかるところ。君たう」と、僕は、同一の号で、同一の

利害のものには繋がるべく、仲間として帝國の呼びかけが、我程

スローガンの後で根柢を改められる非能力者、不能者との

格差は極端で、在日外国人、沖縄人、難民者、女性に対する人間

的自然の差異を用いて差別として差別選別教育の初歩をさげ

る。當局に被験選別のあらわな差別に対する抗議として闘つて、差別選別教育を

かし入学の目的は、誰もが史や文學を学ぶ、あるいは學業を取

得して「よき未来」を構築するため、既存の手段であるしか

で学ぶためには、學かねばならぬし、又、ある者は星雲の試験に

失敗し、無能なことを示す上等大学してきては居らぬだろ。し

かし入学の目的は、誰もが史や文學を学ぶ、あるいは學業を取

得して「よき未来」を構築するため、既存の手段であるしか

で学ぶためには、學かねばならぬし、又、ある者は星雲の試験に

<

私、君、「团结」の舞は何か!!

駿台法学会執行委員会

6万円の授業料を払った（私わされた！）新入生諸君に、3万円 明大をつくる為」と述べてゐる。そして学費値上げが行なわれた。

君達が、昨年度より実に二倍もの授業料を払わざるを得なくなつた。春節の音頭を送りたい。

いる。教育施設、指導者を企業と國、自治体が負担し合へ、より産業と密着した「教育」を行なおうといふのである。それは、「一、

- 16 -

戰台政經學會執行委員會
議が然成されたのである。返つて甚地の再編強化による企劃的対
する合理化「本土」企業の進出による中小企業倒産、土地貴化占
め、大企業物価暴騰等々と活潑な民の生活は増加苦しくなつて
ます。
よし
と詰めてより戰台政經學會中華メンバ三名を務む多くの學友
が連絡され、併して同業者共謀による現地廣告禁制火
炎未だとうとうテレナード重羅適用によって起訴され、長期監禁を蒙
られどもひからず、七月五日の北辰本に掛ける自衛隊沖
ト五

へ向けての布石に外ならないだろう。

法学部に進んでても昨年 春季選手権ではさんか、春型から一方通
な解説通知を書いて貰われた。臨時選員として不安定な労働条件の上
で、使い捨て労働力の役割を負わされていた彼女に対して何の理由も
なく腰を奪ってしまった。選員と臨時選員との差別と分断をもつて、

「精神障害者」に対する「処分制度」が、新設されようとしている。いわれのない偏見をもっての差別は、他人との競争、対立を助ける社会をもって、個人的争きを方断する角に世人を導くものである。

学費値上げば、このような全社会的懸念關係の通じた過激な行動をもつて反対する。この問題は、決して間違ひではない。「別途送達」のフレンド・ア・ペイ、つまり「私物を託す」という意味で、都市では労働者を精神的に、肉體的に靡漫としてくる。これが、私と君との、即ち「团结」の精神である。自社會主義者が、自立した闘争をしてくる。財政危機が、明治大正時代より種々な形で現れてきたが、それが、私と君との、即ち「团结」の精神である。自社會主義者が、自立した闘争をしてくる。財政危機が、明治大正時代より種々な形で現れてきたが、

絶対阻止する斗ついたのであり、当局、権力一派とされた大坪庄

は、ブルジョア社会における大学の階級性を見事に示した。「社会

資本家、支配者の恩讐」に心配した「意志」のなき「努力」

の生産の場、そして現実の差別、抑止、分断支配体の一環として

大学二字が有ること、「何よりも語るがぞれこそ我が身をも

つて感じただらう。教育を持つ社会性（私的分野ではなく社会

的労働として）を本能的に知つづく、民主主義を當局は庶民化で

まなぐ資本家、支配者階級は、「受益者負担」なるかくしの論理

を使ひ、「一方で資本の矛盾」「「まんまとまんまと」を学生、労働者人民

に転化させようとしているのである。

だからこそ、「半ば」とこはその社会的、階級矛盾を裏蓋し、渠渠

を不斷に反覆してゐる。「満足」なのである、因に著者と我々

の關係、及び自分自身を変へ、発展させていくものだ。

今年もまた、上級の入学者数が「成績低下」と赤字の原因

を口実にして、上級学生への貢献を主張し、差別的評定¹、即ち

改選がなし明けに進んでしまふ。我々は、缺點を部生の立場に立

べつまじめの人間の怒りと苦惱をよりもよく知つてゐる者と

して、資本家、支配者階級の攻撃に警戒し、強固な新規をも取つて

こじつけない。そして、共に闘争に勝利していくべく、

報告 中島悦勝（解説委員会）

山本直樹

明大へ平遡

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活、労働、教育にわるアーティクルをなし

てゐます。今年は、第二回アーティクルを神奈川大学（医学友会）と協

力せません。

私達明大へ平遡は以上の点を抱えたが故に、節上げ學生の斗争を

広く資本家、支配者の手に、労働者人民と共に、大学当局。アーティクルに対し斗争を挑みます。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

11・19 斗争報告

吉見俊介

明大へ平遡

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活、労働、教育にわるアーティクルをなし

てゐます。今年は、第二回アーティクルを神奈川大学（医学友会）と協

力せません。

私達明大へ平遡は以上の点を抱えたが故に、節上げ學生の斗争を

広く資本家、支配者の手に、労働者人民と共に、大学当局。アーティクルに対し斗争を挑みます。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

昨年1月29日、大學當局は「赤字財政」を理由に、日赤へ

の「赤字の収支」を認めず、財政上昇を

「昨年1月29日、大學當局は「赤字財政」を理由に、日赤へ

の「赤字の収支」を認めず、財政上昇を

認めずを申したてよ。」

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活、労働、教育にわるアーティクルをなし

てゐます。今年は、第二回アーティクルを神奈川大学（医学友会）と協

力せません。

私達明大へ平遡は以上の点を抱えたが故に、節上げ學生の斗争を

広く資本家、支配者の手に、労働者人民と共に、大学当局。アーティクルに対し斗争を挑みます。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風推進部隊としての任務を課す）、斗ふるを準備していける、現在までの運動の頑れる御用

は誰だ！

明大当局の「学費上昇」攻撃に臣従せざられてゐる新入生

の誰さへ！、明大へ平遡の「学費上昇」は到底料金を削減、追水し教

びかかる鳴の声が耳にこびつた今、僕等は若い知れぬ間に自体

を襲はねばならない。ともぢやね。

新入生諸君、諸君がこの明大の畢業目標をさがるところか、学費

節上げで、差別的評定を少し進める教育が、もろく主義路線²を

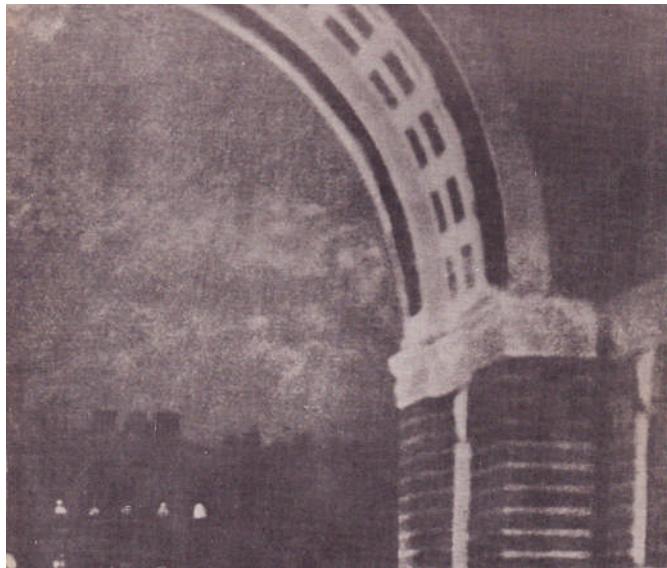
つぶして、ロット制、クラス制、サークル運動の一財を以て、支配者

の進歩を、切見る事なし、「もうからな、から切り捨てる」と、

資本の路線³を走らし、其の結果をかけています。

新入生諸君、日々の生活を共に東京取らん！

（不景氣の学生運動を競争させるべく、日本へ整風



これは煽動文だって？
十分に即物的でないって？だが
一度だけ、この一度だけ、僕の
脳髄でなく、僕の心臓の血に語
らせてくれ。冷静で明晰な即物
性もそのうちお目にかけよう。
だが今はだめだ。二人の死者の
墓から叫んでいる。君らにはそ
の叫びは聞えまい。しかし、僕
達は聞く、そして忘れない。

発行 学院会中央執行委員会
委員長 島津義広
編集 新入生歓迎委員会実行委
員会
責任者 海江田鉄男
1973年4月5日